

科技高 いきものの記

Vol.61 2022.9.26

生物教員 佐藤龍平

うっとりするほど美しい色彩 猿江公園のイトトンボ

トンボ（蜻蛉）の仲間の幼虫は、ご存じの通り「ヤゴ」と呼ばれ、水中で生活している。トンボが生きていくためには池や川などの水場が必要なのだが、そういった水辺環境はどんどん減少していて、また、アメリカザリガニやウシガエルといった非常に厄介な外来生物の影響もあって、**水生昆虫の数は全国的に減少し続けている**。猿江公園の池は人工的に作られたものである上に、外来種も多く入ってしまっていて、お世辞にも“素晴らしい自然環境”とは言い難い。でも、意外にもいろんな種類のトンボが生息している。個人的には、これまでもあまりトンボ類に興味が湧かなかったのだが、夏休み中にいざイトトンボをじっくり観察してみたら、今にも折れてしまいそうな華奢な体と、色鮮やかな体色の美しさに魅了され、虜になってしまった。

そんな折、江東区の環境調査に関わっている方々と知り合う機会があって、色々と話を聞くことができた。都市部の環境調査を行っているアイザワさんは、「大人が行う環境アセスメント調査は単発的なので、**地元の高校が連日にとわって継続的に調べているデータは非常に重要**」とおっしゃっていた。そんな話もあって、俄然やる気が出た。猿江公園のトンボ類はタツキたちが熱心に調べているので（タツキは採集が上手いし、ハルアキはトンボの飛翔写真を撮るのが上手い。どちらもすごい。）、そちらは任せて、私はイトトンボ探しに力を入れてみることにした。

イトトンボはどれも似た種類が多く、同定するのが非常に難しいが、よく見れば見るほど美しい色彩にうっとりしてしまう。ここに載せた以外にもまだまだいるはずだ。絶滅してしまう前に、学校周辺にどんな種類が生息しているのかを調べ尽くしてみたい。



リュウキュウベニイトトンボ *Ceriagrion auranticum* *ryukyuenum* のオス。非常に美しい赤色のイトトンボ。当初はベニイトトンボ（東京都ラング：絶滅危惧Ⅱ類（VU））と思ったが、最近関東で移入が話題になっているリュウキュウベニイトトンボと考えられる。本来の分布は九州以南。2022.7.20



ホソミイトトンボ *Aciagrion migratum* のオス。エメラルドグリーンとブルーの色彩がとても美しい。アオモンイトトンボなどに似ているが、ホソミ（細身）と名付けられているだけあって、とても細長い。トンボの英語「dragonfly」は強そうだが、イトトンボは「damselfly（damself=乙女）」と呼ぶそうだ。2022.7.20



ムスジイトトンボ *Paracercion melanotum* のオス。岸にはあまり寄って来ないが、池に浮かぶ葉などによく止まっている。クロイトトンボに似る。2022.7.21



アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* のオス。アジイトトンボと非常によく似ているが、おしりの青色の位置がアオモンは腹部第8節目、アジイトは9節目。2022.7.25



アジイトトンボ *Ischnura asiatica* のオス（左）とメス（右）。猿江公園南部の上池周辺で最もよく見るイトトンボ。このように同種でも雌雄で色彩が全く違っている。未成熟のメスは赤っぽいものもある。

